

学校関係者評価

受審月日 令和7年6月5日（木）

評価者 ＊米村 重則（松阪市民病院長代理） 横山 孝子（松阪市民病院看護部長）
 清水 敦哉（済生会松阪総合病院長） 松井 美貴（済生会松阪総合病院看護部長）
 田端 正己（松阪中央総合病院長） 濱口 早弓（松阪中央総合病院看護部長）
 富本 秀和（済生会明和病院長） 越川 由美子（済生会明和病院看護部長）
 齋藤 真一（松阪厚生病院長代理） 田米 郁子（松阪厚生病院看護部長）
 高橋 勇子（南勢病院看護部長）
 志賀 かなえ（独立行政法人国立病院機構 三重中央医療センター附属三重中央看護学校副学校長）
 一志 麻奈斗（同窓会「松看会」会長）
 松本 みづき（在校生保護者代表）
 平野 千里（松阪市障がい福祉課 保健師）
 ＊委員長

令和6年度

松阪看護専門学校 学校関係者評価

評価項目	評価内容
I. 教育理念・教育目的・教育目標	教育理念は、地域に密着した看護師養成施設として妥当であり、教育理念・教育目的、教育目標に一貫性がある。また、ホームページ及びシラバスに明示されていることや、学生や教育関係者への周知もされ、共通認識が図れている。目標の達成への取り組みもされ、意気込みが感じられる。
II. 教育課程	全ての学年で新カリキュラムが導入され、学生にとって有益なカリキュラムになるように適切に評価され、工夫が重ねられている。地域で生活する人々の支援ができるような科目の配置や、松阪地区の人々の暮らしを理解し健康的な生活を支えるシステムなどを、各現場で活躍する講師陣から教授される構成になっており、生活者としての理解に繋がっていると考える。学生に提示される講義概要は、学生に科目のイメージがしやすい作りになっている。 実習においても、実習指導者会議において実習指導者と教員の役割の確認など、協働体制が図られている。今後もフィードバックを重ねてより充実した内容に発展させていただきたい。
III. 教授・学習・評価過程	多職種との連携を学ぶ科目として、リハビリテーションの学校との協同学習をされていることは、それぞれの役割を理解する貴重な機会となり、チーム医療や保健・医療・福祉の連携や看護師の役割を認識できると考える。また、教授後のデータからの評価や取り組みがなされ、授業評価の未入力対策への取り組みにより、昨年に比較して20%減少したことや、自己学習時間の向上への取り組みが、再試件数の減少につながった点などは高く評価できる。また、卒業前演習に卒業生が模擬患者として授業参加されるなど、学生の学びが深まるように授業内容の工夫がされている。単位認定においても、学生に明示されていて公平性も担保されている。卒業時の学生へのアンケートでも、教育内容の満足度が高いことから学習への動機づけがされていると考える。看護師国家試験の合格率100%は本当に素晴らしいと思う。引き続き今のレベルを維持していただきたい。
IV. 経営・管理過程	経済的な支援を含め、学生の学びを継続的に支援できる体制ができている。学生確保において、入学者が増えたことは財源基盤の安定にもつながるため評価できる。また、インスタグラムのフォロワー数が倍増し、学校からの情報発信がタイムリーな魅力あるものとなっている。 医師会も財源状況は苦しく、その中でも、教員の増員を図って、さらなる充実を図っていただきたい。

V. 入学	指定校推薦枠の見直しや、社会人入試への取り組みもなされ、オープンキャンパスも2回に分けて取り組まれており受験者数の確保に繋がっていると考えます。社会人向けのオープンキャンパスも良いが、個別にオンライン説明会など実施されても良いと思う。人材確保が困難な状況であることから、看護学生の確保に向けて様々な取り組みは重要な課題である。
VI. 卒業・就業・進学	卒業後の調査では、卒業生の状況、問題を明確にし、課題を意識した取り組みがされている。学校と就職先との情報交換がされ、繋がりを持った取り組みとして今後も継続していただきたい。早期離職にならないような就職先の病院との連携強化が重要と考える、卒業生の98%が松阪地区管内へ就職しており、地域貢献できている。今後も社会人基礎力の強化に向けた授業や実習の工夫を継続してほしい。同窓会からも情報提供し、引き続き連携を取っていきたい。卒業後にも卒業生が来校しやすい取り組みなども期待したい。
VII. 地域社会・国際交流	松阪マラソンや消防団への参加などのボランティア活動、中学校との交流、献血への参加など地域社会での活動、貢献を積極的に行っており評価できる。地域消防団への参加は市民としても心強い。国際化が進む中で、外国人患者への看護ができるような科目も設定されていて、国際的な視野を広げる教育的な取り組みを今後も続けて頂きたい。
VIII. 研究	今年度取り組まれた倫理委員会の整備は、研究活動の礎となることから、研究をする環境整備に努めていて評価できる。教員の研究時間を捻出しようと、業務調整され、研究時間の確保をされるなど、教員の研究的意欲の向上につながっている。
総評	新カリキュラム初年度生が卒業し、教育理念・目的・目標に沿い、地域を見据えた科目や国際的視野を広げる科目など工夫がなされ、特色が活かされている。学生が主体的に学べるよう、授業・実習での指導を継続していただきたい。SNSやオープンキャンパスなど、工夫を凝らして実施できている。 今後の地域医療を支えるためには看護師が必要である。学校と病院などの地域が連携して、学生の確保に努めていく。同窓会との連携もなされている点も評価できる。課題として、学校での取り組みを学会などでの発表を視野に入れてはどうか。そうすることで学校の知名度アップにもつながると思う。 地域医療を支えていくためには、看護学校の存続が不可欠である。より良い教育を目指し、今後も学校と実習病院などが連携して後輩の育成に取り組んでいく。